

# 地方こそ、ITの恩恵を

## 延岡からテイクオフ

### 自ら変革し挑戦する勇気を

きつと、ITディバイドという言葉が生まれてくるでしょう。それは、ITが活用される度合いで、地方の文化や経済、教育に格差が生じることです。

「ITで私たちの生活はどんなふうになるのか?」と思っっている人はおそらくITを理解していないでしょう。そして、「将来、ITと言う世界が、地方に豊かな文化を提供し、幸せな環境をいつの間にか作ってくれる」と思っっている人はITの負の要素を知らないでしょう。

バブルの崩壊後でも、私たちは以前と変わらない豊かな生活に安住しています。しかし、現在、その高い生活水準と裏腹に、現実社会では、企業の倒産やリストラが増え続け、失業率も高くなっています。

ITやグローバル化がもたらす厳しい現実や産業構造の変革がいつそう進み、合理化に拍車がかかることです。経営にコスト削減を図るか、コスト削減の対象に自らなるのか、表裏一体となる運命が常につきまっています。

ITは高度化した情報技術がもたらす環境や機会ですから、ITそれ自体が世の中を変えることではありません。もちろん情報産業やデジタル機器が私たちのライフスタイルを否応なく変えていくでしょうが、それをただ何もせず受け入れるだけか、自ら積極的にそれを利用しようとするかでは天と地の差があります。

ITがもたらす負の現象を最小にして、豊かな福利を地方に実現するには、「どんなふうになるのか?」ではなく、「それを利用して、こんなふうに変えよう!」と言いつ意欲と行動です。

資材や仕入れ商品にコストダウンを図ろうとするならば、直接メーカーと取引するでしょう。流通経路の中間に位置する商社や仲介業者を除けば、間違いなくその目的が果たせます。そのかわり、煩雑な契約や、トラブルや、心配もあるでしょう。

今、私のオフィスでは印刷や製本の受注に、その印刷、製本工程を韓国で行おうと考えています。その方がずいぶん安上がりになるからです。デザインと

編集はこちらが受け持つ分野で、FTP(インターネットでのデータ送信方法の一つ)で全ての原稿が送れます。色指定も国際色見本帳の番号でほぼ間違いないと通じます。ITの環境整備は韓国が我が国より先駆けてます。もちろん、文化や言語の違いでコミュニケーションできないものも少しありますが。

しかし、リスクは、新しい方法で問題を解決しようとするとき常に伴うことです。それを回避すれば前進はありません。

幸いなことにこの地には、旭化成と言うシンクタンクがあり、ケーブルネットのネットワークが充実しつつあります。これら企業のソフトやハードを利用することで、官民一体となったITタウンの構想が図られるべきです。TMO(街づくり機構、コンセプトが古い)に先立つ課題です。

NCA(延岡コンピュータアカデミー)の再興を望みます。才能や想像力のある生徒を集め、産学協同となる学校で、個人をベンチャー的にサポートするシステム。カリキュラムはコンピューターによるマルチメディア科を主にテクニカルアート(商品プレゼンテーションの3Dやアニメーションの制作)を習得する。映像や音楽を常にライブで放映するインターネット放送局としての機能、設備をもつ。これらコンピューターが創りだす感性を産業とすること。このような環境の下ではじめて、延岡の経済市場はこの地をテイクオフして日本中、世界中に羽ばたくのです。

その時、ITは自然と人情豊かなこの風土にたおやかな恩恵を与えてくれることでしょう。

岸本泉 著



緑豊かな自然と共生する、IT先進国シンガポール(オーチャードロード)の風景